

NEC iStorageシリーズ iStorage NS500Ba

2

セットアップ

本装置お使いになれるまでの手順について説明します。

「ハードウェアのセットアップ」(30ページ)

本体の設置にふさわしい場所や背面のコネクタへの接続について説明しています。

「システムのセットアップ」(36ページ)

本製品を使用するための初期設定の方法や、オプションソフトウェアについて説明します。

ハードウェアのセットアップ

本製品を取り付けて、電源をONにすることができる状態になるまでを説明します。本製品を取り付け後、オペレーティングシステムなどのシステムのセットアップをします。詳しくは導入編を参照してください。

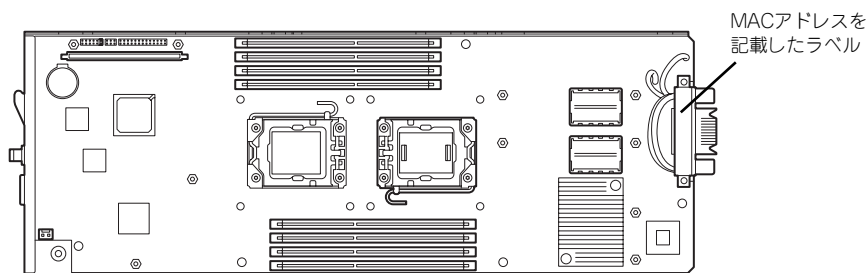
CPUブレードの取り付けの前に

CPUブレードの取り付けの前に、CPUブレードのMACアドレスの確認を行うようにしてください。

MACアドレスの確認

MACアドレスはネットワーク固有のアドレスで、「003013」で始まる12桁の英数字で表されます。CPUブレードは2つのMACアドレスを持っています。取り付けの前にMACアドレスを確認してください。

MACアドレスは下図に示す位置に記載されています。



記載されているMACアドレスの末尾の数字/アルファベットによってLANポートのアドレスが変わります。

記載されているアドレスの末尾の数字/アルファベットが偶数またはA,C,Eの場合：

LANポート1のMACアドレスは、記載されたMACアドレス

LANポート2のMACアドレスは、記載されたMACアドレスに+1したもの

記載されているアドレスの末尾の数字/アルファベットが奇数またはB,D,Fの場合：

LANポート1のMACアドレスは、記載されたMACアドレスに+1したもの

LANポート2のMACアドレスは、記載されたMACアドレスに+2したもの

MACアドレスは、WindowsまたはLinuxのコマンドからも確認することができます。

- **Windows**

コマンドプロンプトまたはスタートメニューの「ファイル名を指定して実行」から、「ipconfig /all」と入力して表示される物理アドレス部分を参照してください。

- **Linux**

プロンプトで「ifconfig」と入力して表示される「HWaddr」を参照してください。

EXPRESSSCOPEエンジン2(BMC)のリモート制御を使用しても確認可能です。

メモリの取り付け

モデルによっては、メモリが搭載されていないものがあります。この後にある「内蔵オプションの取り付け」を参照してメモリを取り付けてください。

CPUブレードの取り付け

CPUブレードは専用のブレード収納ユニットに取り付けます。ブレード収納ユニットの設置場所や取り付けについて、ならびにCPUブレードの取付方法については、ブレード収納ユニットに添付の説明書を参照してください。



CPUブレードは大変静電気に弱い電子部品です。装置の金属フレーム部分などに触れて身体の静電気を逃がしてからボードを取り扱ってください。また、CPUブレードの端子部分や部品を素手で触ったり、CPUブレードを直接机の上に置いたりしないでください。静電気に関する説明は73ページで詳しく説明しています。

ハードディスクドライブの取り付け

ハードディスクドライブの取り付け手順については、この後にある「内蔵オプションの取り付け」を参照してください。



- ハードディスクドライブは大変静電気に弱い電子部品です。装置の金属フレーム部分などに触れて身体の静電気を逃がしてからボードを取り扱ってください。また、ハードディスクドライブの端子部分や部品を素手で触ったり、ハードディスクドライブを直接机の上に置いたりしないでください。静電気に関する説明は73ページで詳しく説明しています。
- ハードディスクドライブにはオペレーティングシステムがインストールされた状態場合があります。取り扱いには十分に注意してください。
- ハードディスクドライブに衝撃や振動を与えないよう十分、取り扱いに注意してください。

設置

装置と周辺装置を接続します。



- 無停電電源装置や自動電源制御装置への接続やタイムスケジュール運転の設定などシステム構成に関する要求がございましたら、保守サービス会社の保守員（またはシステムエンジニア）にお知らせください。
- ブレード収納ユニット(SIGMABLADE)に取り付ける場合は、ブレード収納ユニットユーザーズガイドに記載されている接続上の注意事項に従ってください。

警告



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- めれた手で電源プラグを持たない
- アース線をガス管につながらない

注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 指定以外のコンセントに差し込まない
- たこ足配線にしない
- 中途半端に差し込まない
- 指定以外の電源コードを使わない
- プラグを差し込んだままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない
- 指定以外のインタフェースケーブルを使用しない

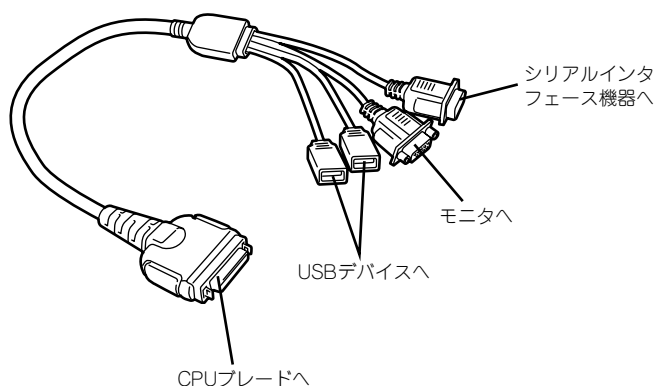
日常の運用では、CPUブレードにケーブルを接続する必要はありません。CPUブレードにあるUSBポートやシリアルポート、VGAポートに接続する必要があるのは次の場合です。

- OSインストールを行う場合(*)
- 保守作業を行う場合
- BIOS/各種FWのアップデートを行う場合

CPUブレードに接続するケーブルは、別売のK410-150(00)SUVケーブル(ブレード収納ユニット(SIGMABLADE)には標準添付されています)のみです。

* CPUブレードをブレード収納ユニット(SIGMABLADE-H)に搭載したときのみ。

別売のK410-150(00)SUVケーブルの先には、USBとシリアルインタフェース、モニタ接続用コネクタが付いています。それぞれのデバイスに接続してください。



- NEC以外（サードパーティ）の周辺機器およびインタフェースケーブルを接続する場合は、お買い求めの販売店でそれらの装置を使用できることをあらかじめ確認してください。サードパーティの装置の中にはCPUブレードで使用できないものもあります。

- シリアルポートコネクタには専用回線を直接接続することはできません。

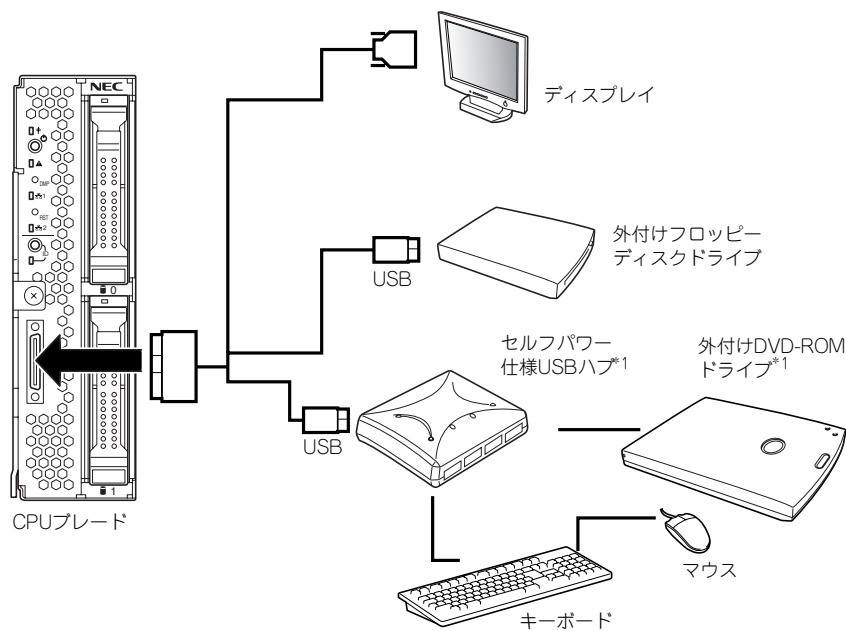
- 本体の電源ONした後、オペレーティングシステムが起動するまでの間は、SUVケーブルを抜き差ししたり、接続されたUSB機器の追加、および取り外しを行わないでください。オペレーティングシステムが起動した後のSUVケーブルの抜き差し、USB機器の追加、および取り外しについては、オペレーティングシステムの制限に従ってください。

ただし、シリアルインタフェース機器を接続している場合、本体と接続先の装置の電源をOFFにし、接続先の装置の電源コードを抜かない限り、SUVケーブルを抜き差ししたり、シリアルポートへ接続したケーブルを抜き差ししないでください。機器間の電位差で装置が故障するおそれがあります。

- CPUブレードをブレード収納ユニット(SIGMABLADE-H)に搭載し、OSをインストールする場合は、SUVケーブルを使用してください。SUVケーブルを使用してのUSB接続については34ページを参照してください。

別売のK410-150(00)SUVケーブルを使用してのUSB接続について

フロッピーディスクドライブやCD-ROM、キーボード、マウスを同時に接続する場合は、下図のように接続してください。



*1 本装置がサポートするUSBハブおよび外付けDVD-ROMドライブを使用してください。

SSU（サーバスイッチユニット）経由 106キーボード使用設定

SSU経由で106キーボードを接続し、システムのインストールを行うと106キーボードが101キーボードとして認識され、システムに登録されます。

そこで、アップデートを行い、101キーボードとして登録されている情報を106キーボードに変更し、SSU経由で106キーボードを使用できるように情報を変更します。

アップデートの手順を以下に説明します。



この手順を実行するには、管理者または Administrators グループのメンバーとしてログインしなければなりません。

1. EXPRESSBUILDERに格納されているSsu106¥update.exeを実行する。

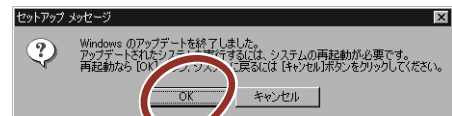
セットアップ画面が表示されます。

2. [OK]をクリックする。

アップデートが終了すると、システムの再起動を促すメッセージボックスが表示されます。



3. [OK]をクリックし、システムを再起動する。



アップデートでの修正内容は、システムの再起動後に有効となります。

ネットワークへの接続について

ネットワークへの接続は、ブレード収納ユニットを通じて行われます。
実装するブレード収納ユニットのユーザズガイドを参照してください。

システムのセットアップ

システムのセットアップは、本装置へのログオン後初期構成タスク画面から行います。

グラフィックスアクセラレータドライバのインストール

次の手順にしたがってインストールしてください。

1. EXPRESSBUILDERを光ディスクドライブにセットする。
2. スタートメニューから [プログラム]、[アクセサリ] の順でポイントし、[エクスプローラ] をクリックする。
3. グラフィックスアクセラレータドライバをインストールする。

光ディスクドライブの「¥007¥win¥winnt¥ws2008¥video」ディレクトリ内の [install.bat]アイコンをダブルクリックする。

4. 以降はメッセージにしたがって作業を進める。

途中、「デジタル署名が見つかりません」というメッセージが表示された場合は、[はい] をクリックし、インストールを続けてください。

5. EXPRESSBUILDERを光ディスクドライブから取り出し、システムを再起動する。

以上で完了です。

セットアップの準備

本装置を設定する前に、本体および本体標準装備のLANポートに割り当てる次の情報を準備してください。

「各部の名称と機能」(9ページ) を参照して、LANポートの位置を確認してください。

- コンピュータ名
- 管理者パスワード
- IPアドレスとマスク値

電源のON

システムの電源をONにします。

1. CPUブレードをブレード収納ユニットに取り付ける。
2. 21ページの「電源のON」を参照して、CPUブレードの電源をONにする。

CPUブレードのPOWERランプが緑色に点灯します。

初期設定

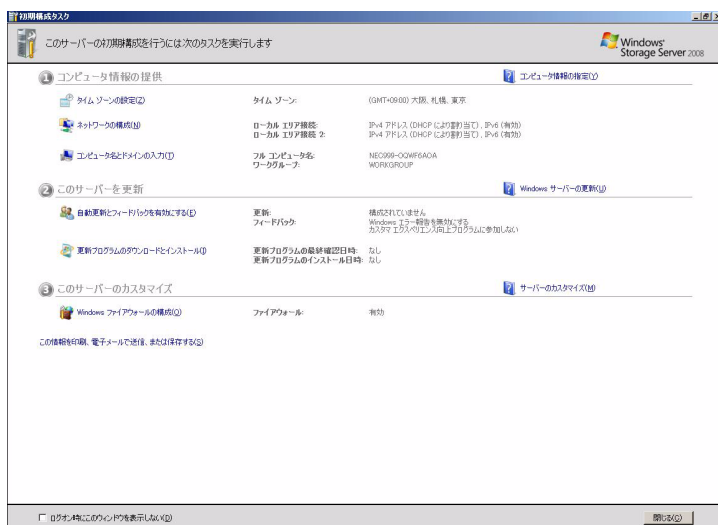
管理PC からリモートデスクトップ接続できるようにするために、本装置の初期設定を行います。



リモートKVM 機能を使って、本体に接続する場合はEXPRESSBUILDER 内の「EXPRESSSCOPEエンジンユーザズガイド」を参照してください。

本体内蔵のLANポート1に割り当てる情報として、「コンピュータ名」、「IPアドレス」、「IPアドレス用のサブネットマスク」を用意してください。

初期構成タスク画面にて、コンピュータ名と IPアドレス、ドメイン、日時を設定します。



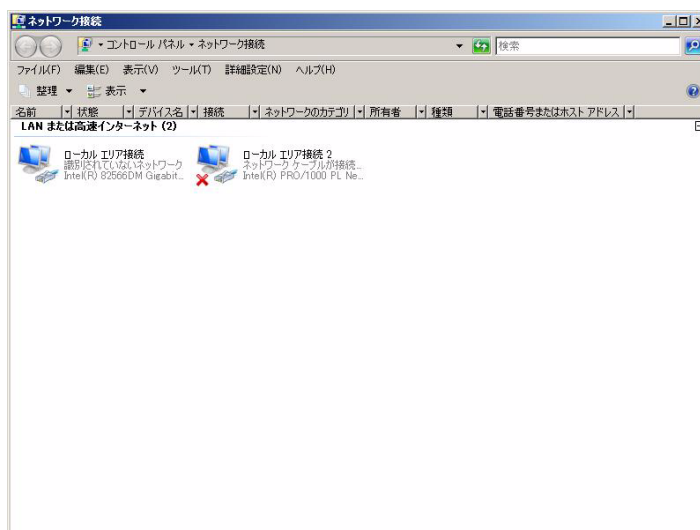
[日時の設定]

1. 初期構成タスク画面にて、[タイムゾーンの設定] をクリックします。
2. 日付と時刻の画面が表示されますので、日時を設定します。



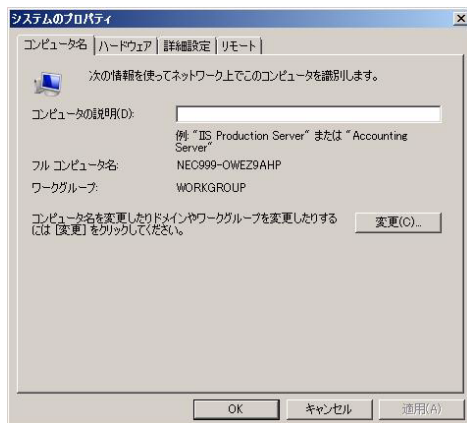
[IPアドレスの設定]

1. 初期構成タスク画面にて、[ネットワークの構成] をクリックします
2. ネットワーク接続の画面が表示されますので、IPアドレスを設定します。



[コンピュータ名・ドメインの設定]

1. 初期構成タスク画面にて、[コンピュータ名とドメインの入力] をクリックします。
2. システムのプロパティの画面が表示されますので、[変更] ボタンをクリックしてコンピュータ名とドメインを設定します。



[パスワードの設定]

ディスプレイ、マウス、キーボードを直接接続している場合

1. Ctrl、Alt、Delキーを同時に押下します。
2. [パスワードの変更] をクリックしてパスワードを変更します。

リモートKVM 機能を使用している場合

1. 画面上部の[Ctrl + Alt + Del] ボタンを押下します。
2. [パスワードの変更] をクリックしてパスワードを変更します。



- パスワードの文字数は6文字以上である必要があります。また、パスワードには、英大文字、英小文字、数字、アルファベット以外の文字の4つの種類のうち3つの種類が使用されていなければなりません。
- パスワードの有効期限は初期設定では42日になっておりますので、お客様のポリシーに合わせて適宜変更してください。

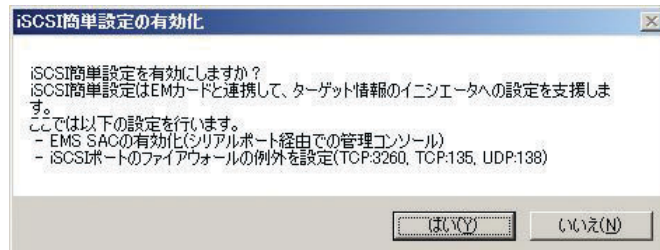


各設定内容については注意制限事項、および管理者ガイドを参照してください。

設定が終了したら、システムを再起動します。再起動後はコンソールやリモートKVM、またはリモートデスクトップから、ファイルサーバの設定を行います。設定方法は管理者ガイドを参照してください。

iSCSI簡単設定ツール

iSCSIブートの設定を簡単に行うためには、iSCSI簡単設定を有効（[[はい(Y)]] を選択）にしてください。



この設定を有効にすることで、iSCSIターゲット情報をSIGMABLADEのEMカードと共有し、iSCSIブートに必要な情報をiSCSIイニシエータに簡単に設定することが可能になります。



本機能の詳細については、EMカードのユーザーズガイドを参照してください。

その他の設定について

初期設定が完了しても、シャドウコピーなどNASの各種機能を使用するための詳細設定や、あらかじめインストールされている管理アプリケーションの固有のセットアップが必要です。管理者ガイドおよびオンラインドキュメントを参照して、必要なセットアップを行ってください。

本装置にインストール済みのアプリケーションは次のとおりです。

- ESMPRO/ServerAgent
- Universal RAID Utility
- エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)

すべてのセットアップが完了したら、本装置のシステム情報のバックアップをとります。バックアップはEXPRESSBUILDERを使用します。EXPRESSBUILDERの起動方法やシステム情報のバックアップの手順については、「EXPRESSBUILDER」(61ページ)を参照してください。



iStorage NSソフトウェアを再インストールする場合は237ページを参照してください。

BIOS設定の注意点

通常、BIOSの設定を変更する必要はありませんが、以下の作業の際にはデバイスのブート順の設定を確認してください。

- 内蔵ハードディスクドライブの取り付け/取り外しをしたとき
- EXPRESSBUILDERを起動して管理PCからリモート操作（コンソールレス）するとき

次の手順に従ってBIOSの設定を変更することができます。

1. 5章の「マザーボードのコンフィグレーション」を参照してシステムBIOS SETUPユーティリティを起動する。
2. 「Boot」メニューを選択し、以下の順にデバイスが設定されていることを確認する。
 - (1) [USB CDROM]
 - (2) [IDE CD]
 - (3) [USB FDC]
 - (4) [USB KEY]
 - (5) [IDE HDD]
 - (6) [PCI SCSI]
 - (7) [PCI DEV]
 - (8) [任意]
3. 内容を保存してシステムBIOS SETUPユーティリティを終了する。

以上で完了です。

オプションソフトウェアの追加

本製品にはいくつかのオプションソフトウェアがあります。オプションソフトウェアは工場出荷時にはインストールされていないので、ご使用前にインストールする必要があります。本製品をサポートするオプションソフトウェアについては、販売店などにご確認ください。

各オプションソフトウェアをインストールする場合は、まずは以下の手順で本装置にアクセスします。

1. 管理PCからリモートデスクトップにて本装置へ接続する。
リモートデスクトップ接続については、「本装置への接続」を参照してください。
2. Administrator権限を持つユーザで本装置にログオンする。
3. オプションソフトウェアのCD-ROMを本体の光ディスクドライブにセットする。
4. リモートデスクトップ内でエクスプローラを起動し、CD-ROM内のセットアップ用のプログラムを実行する。

以降のセットアップの手順については、各オプションソフトウェアのマニュアルに従ってください。



オートラン機能でセットアッププログラムが起動するオプションソフトウェアについては、リモートデスクトップ上では自動起動しませんので、インストールディスクの中の「autorun.inf」の中に記載されているセットアッププログラムを実行してください。



オプションソフトウェアをインストールする場合は、各ソフトウェアの必要システム情報を参照してください。